

宿泊旅行統計調査からみた長崎県の宿泊客

～ 長崎県の2007年上半期の延べ宿泊者数は2,148千人で全国24位

うち外国人は222千人で全国9位～

国土交通省は、観光産業振興政策の基礎となる観光統計を整備すべく、2007年1月から全国統一基準による宿泊旅行統計調査を始めた。このほど発表された調査結果から長崎県の宿泊客の状況を紹介したい。

1. 本調査は従業者数10人以上の全宿泊施設を対象とし、四半期ごとに実施。2006年2月の第一次予備調査、同年6～8月の第二次予備調査を経て、2007年1～3月から本調査を実施。
2. 延べ宿泊者数は、例えば1人の宿泊者が2泊した場合に2人と数えるものであり、子供や乳児もカウントしている。

図表1 都道府県別の延べ宿泊者数
＜2007年1～6月＞ (千人)

順位	都道府県	1～3月	4～6月	計
	全 国	72,042	72,143	144,185
1	東 京 都	8,334	8,597	16,931
2	北 海 道	5,835	5,579	11,414
3	大 阪 府	3,678	3,778	7,456
4	千 葉 県	3,678	3,488	7,166
5	静 岡 県	3,162	2,863	6,024
6	沖 縄 県	2,949	2,593	5,541
12	福 岡 県	2,212	2,123	4,335
20	熊 本 県	1,238	1,279	2,518
21	鹿 児 島 県	1,209	1,170	2,379
22	大 分 県	1,166	1,145	2,311
24	長 崎 県	1,085	1,063	2,148
36	宮 崎 県	692	632	1,324
41	佐 賀 県	459	431	890
43	高 知 県	418	426	844
44	鳥 取 県	425	391	815
45	島 根 県	384	424	808
46	徳 島 県	259	309	568
47	奈 良 県	221	345	565

資料：宿泊旅行統計

(注) 単位未満は四捨五入。

図表2 延べ宿泊者数の四半期比較
「2007年1～3月」→「4～6月」

都道府県	乖離率 (%)
全 国	0.1
奈良県 (プラス最大)	56.0
熊 本 県	3.3
大 分 県	▲1.7
長 崎 県	▲2.1
鹿 児 島 県	▲3.2
福 岡 県	▲4.0
佐 賀 県	▲6.3
宮 崎 県	▲8.7
沖 縄 県	▲12.1
石川県 (マイナス最大)	▲23.3

資料：宿泊旅行統計

(注) プラスは「1～3月」＜「4～6月」、
マイナスは「1～3月」＞「4～6月」。

○2007年上半期（1月～6月）の延べ宿泊者数は2,148千人で全国24位

2007年上半期（1～6月）における全国の延べ宿泊者数は144,185千人であった。都道府県別にみると、観光、ビジネス客ともに多い東京都（16,931千人）がトップで、以下、北海道、大阪府、千葉県、静岡県と、集客力のある観光地を持つ都道府県が続く。九州・沖縄では沖縄県の6位が最高となっている。一方、最も少ないのは、観光資源はあるものの大規模な宿泊施設が少ない奈良県（565千人）で、次いで徳島県、島根県、鳥取県、高知県といったように四国地方や山陰地方での宿泊者数の少なさが目立っている（図表1）。

四半期別にみると、全国では1～3月が72,042千人、これに対し4～6月は72,143千人と、前期比わずかに増加しているが、大勢としては横這いで推移しているといえよう。もっとも、これを都道府県別にみると、例えば奈良県で4～6月が1～3月を6割近く上回ったり、逆に沖縄県では4～6月が1～3月を1割強下回るといったように、地域によってはかなりの差がみられる（図表2）。これは、季節的要因やイベントの有無などの影響によるものと考えられる。

長崎県の延べ宿泊者数は2,148千人、九州・沖縄8県のなかでは6位と低い。全国では24位と中程に位置する。四半期別にみると、1～3月が1,085千人、4～6月が1,063千人と1～3月の方が22千人多かった。温暖な気候ゆえか熊本県を除く九州

各県は1～3月の方が多いが、長崎県はそのなかでは比較的平準化されているといえよう。

○宿泊客のうち外国人は222千人で全国9位、その割合は10.3%で全国4位、韓国、台湾で8割を占める

全国の延べ宿泊者数のうち外国人は10,370千人で、全体の7.2%を占める。都道府県別にみると、東京都（3,384千人）をトップに、大阪府、千葉県、北海道、愛知県と続き、この上位5都道府県で全体の6割強を占める（図表3）。外国人の国籍・地域別構成比は、多い順に韓国（18.9%）、台湾（18.4%）、アメリカ（13.8%）となっており、これらで全体の過半を占める。

長崎県についてみると、外国人は222千人で全国9位、また、外国人の占める割合は10.3%で全国4位となっている。国籍・地域別で最も多いのは韓国の120千人（全国5位）で、それに台湾の57千人（同7位）が続き、この両者が全体の8割（韓国54.2%、台湾25.6%）を占めている（全国ベースでは4割弱）。これらの地域（とくに韓国）と地理的に近く、古くからの交流の歴史を有する長崎県の特徴が、このような結果にも表われているといえよう（図表3、4）。

図表3 外国人延べ宿泊者数

<2007年1～6月> (千人、%)

順位	都道府県	延べ宿泊者数	外国人の割合
	全 国	10,370	7.2
1	東 京 都	3,384	20.0
2	大 阪 府	1,119	15.0
3	千 葉 県	892	12.4
4	北 海 道	842	7.4
5	愛 知 県	511	9.7
9	長 崎 県	222	10.3

資料：宿泊旅行統計

（注）順位は外国人延べ宿泊者数の多い順。「外国人の割合」とは、延べ宿泊者数全体に占める、外国人の割合。

図表4 外国人宿泊者の国籍・地域別構成比

<2007年1～6月> (千人、%)

国籍・地域別	全 国 構成比	長 崎 県	
		延べ宿泊者数	全国順位 構成比
韓 国	18.9	120	5 54.2
台 湾	18.4	57	7 25.6
ア メ リ カ	13.8	18	11 8.3
香 港	9.0	6	17 2.8
中 国	7.3	5	20 2.4
そ の 他	32.6	15	- 6.7
合 計	100.0	222	- 100.0

資料：宿泊旅行統計

（注）構成比は人単位で算出。

図表5 居住地別延べ宿泊者数

<2007年1～6月>
(従業者数100人以上の施設)

(千人、%)

順位	居住地別	延べ宿泊者数	構成比
	合 計	709	100.0
1	福岡県	108	15.2
2	東京都	84	11.8
3	長崎県	68	9.6
4	大阪府	48	6.8
5	愛知県	31	4.4
7	熊本県	20	2.8
11	大分県	12	1.8
12	佐賀県	12	1.8
13	鹿児島県	11	1.5
20	宮崎県	6	0.8
21	沖縄県	5	0.8
	東京・大阪・愛知	163	23.1
	九州・沖縄(長崎除く)	174	24.7

資料：宿泊旅行統計

（注）調査対象は従業者数100人以上の宿泊施設。上記の合計に外国人も含むが、居住地不明は含めていない。順位は国内。構成比は人単位で算出。

○居住地別では、福岡県が15.2%と最も多く、全体の4分の1が九州・沖縄から

長崎県の従業者数100人以上の宿泊施設に宿泊した延べ宿泊者数を居住地別にみると、最も多いのは地理的にも経済的にも近い福岡県で構成比15.2%、以下、東京都（11.8%）、長崎県（9.6%）、大阪府（6.8%）、愛知県（4.4%）となっており、大都市圏である東京都・大阪府・愛知県の3都府県で23.0%を占める。また、九州・沖縄（長崎県を除く）7県の合計で24.7%となり、これら10都府県で47.7%と半分近くを占めている（図表5）。

（宮崎 繁樹）